

コスタリカ内政・外交主要事項 (2020年4月)

2020年4月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 当国で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから1か月が経過し、死者は6名まで増加。
- 2 現政権発足から3人目の大統領府大臣が任命。
- 3 会計検査院は、ソリス前大統領に対する、臨時予算の組替えにおける怠慢に関して、強制調査を開始。
- 4 新型コロナウイルス対策が一定の評価を受け、アルバラード大統領の支持率が急上昇。
- 5 5月1日から、現政権の第3タームが始まることを受けて、各党は議員団長を選出。

外交

- 1 コロナ禍で帰国できなくなっているコスタリカ人のうち、ペルーから93名、日本から3名のコスタリカ人が帰国。
- 2 ユナイテッド航空臨時便により、多数のコスタリカ人が帰国し、逆に米国人を中心に多くの滞在者が出国。
- 3 2度にわたり入国禁止措置が延長。
- 4 中国及び中米経済統合銀行からの医療物資支援が決定され、韓国からは技術的側面から協力を得た。
- 5 オルテガ・ニカラグア大統領が消息不明になっていることについて、コスタリカの病院で治療を受けたのではないかとの臆測が飛んだ。

【各論】

I 内政

1 新型コロナウイルス関連

(1) コスタリカ社会保険庁 (CCSS) は、8日から特例を除いて医療施設への面会を禁止することを発表した。

(2) 4月15日、保健省は、感染者626人(15日時点)のうち、350人が16のクラスターに固まっていることを明らかにした。右16のグループのうち、2グループはサンホセ市内のコールセンターで発生しており、各48人と6人である。

(3) 3人目の犠牲者。8日、コスタリカ人男性45才。4人目の犠牲者。15日、コスタリカ人男性84才。5人目の犠牲者。19日、コスタリカ人男性69才。6人目の犠牲者。20日、コスタリカ人男性54才。

2 ビクトル・モラレス大統領府大臣の辞任とマルセロ・プリエト新大臣の就任

4月16日、アルバラード大統領はモラレス大臣の辞任に伴い、新大統領府大臣にマルセロ・プリエト・ヒメネス (Marcelo Prieto Jimenez) 氏を任命 (5月1日正式就任) した。

3 ソリス前大統領に対する強制調査

ソリス前大統領 (市民行動党 (PAC)) が2018年に公債の支払のために臨時予算を組まなければならなかったにもかかわらず、それを知りながら怠ったとされている問題で、会計検査院が強制調査を始めたことが明らかになった。複数の議員は、ソリス前大統領が右予算をつけなかった理由は、当時はアルバラード現大統領が与党PACの候補として立候補していた大統領選挙戦の最中であり、大統領選挙で自党が不利にならないように公債の額を隠すためであったとしている。ソリス前大統領は、自身のフェイスブック上で、今回の件に関し、自分に責任はなく、説明責任は尽くしたとしている。

4 アルバラード大統領の支持率急上昇

4月28日、コスタリカ大学政治研究調査センター (CIEP) は、13日から22日まで、18才以上の人に対して実施していた電話アンケート調査の結果を公表した。

昨年11月には22%であったアルバラード大統領の支持率は、新型コロナウイルス対策の緊急事態の真っ最中であって、65%まで急上昇した。大統領就任以来、最も高い支持率で、1995年以降の大統領の中でも最高値である。CIEPは、緊急事態におけるリーダーの支持率上昇は、他国でも見られると付け加えた。

また、現政権に対する評価は、76%が支持すると回答し、前回調査の19%から大幅に上昇した。CIEPは、新型コロナウイルスに対する保健省やコスタリカ社会保険庁の有効策や信頼が評価を高めたと分析している。

5 各党新議員団長が決定

主要政党

PLN : フェルナンド・チャコン (副団長カリーヌ・ニーニョ)

PAC : エンリケ・サンチェス (副団長カロリーナ・モンテロー)

PRN : シアモラ・ロドリゲス (副団長メルビン・ヌニェス・ピニャ)

PUSC : ロドルフォ・ペーニャ (副団長シャルレイ・ディアス)

II 外交

1 ペルー及び日本からの帰国便

(1) ペルー : 4月2日、3月16日からペルーに取り残されていた93名のコスタリカ人は、アビアンカ航空と旅行代理店Vemsaの協力の下帰国を果たした。18名のホンジュラス人も搭乗していた。

(2) 日本：日本からの出国が不可能になっていたコスタリカ国民3名は、12日に本邦発で出国した。在京コスタリカ大使館と在京墨大使館の支援により、右3名は、アエロメヒコに搭乗し、メキシコシティー経由で帰国の途についた。

2 ユナイテッド航空臨時便

17日、ユナイテッド航空の運航により、米国ヒューストンから112人のコスタリカ国民が帰国した。また、在京コスタリカ米大は、20日、27日、サンホセ発ヒューストン行きで運航することを発表。さらに、22日には、アビアンカ航空がサンホセ発マイアミ行きの臨時便を運行予定。

3 入国禁止措置の延長

(1) 4月6日、マイケル・ソト司法警察大臣は、4月12日に解除が予定されていた入国禁止措置を4月30日まで延長することを発表した。コスタリカ人及び在留資格を有する外国人のみ入国が許可される。また、当国に滞在する外国人で、一旦出国した場合には、その時に有していた資格が剥奪されることも発表された。

(2) 4月20日、サラス保健大臣は、当国への入国禁止措置期間を5月15日まで延長することを発表した。

4 医療物資支援及び技術的協力

(1) 中国：ラモン・マカヤ・コスタリカ社会保険庁（CCSS）長官は、新型コロナウイルス対策のために世界市場では、医療関連物資を巡る争奪戦が展開されており、関連物資の国内精算の必要性に言及した。「マ」長官は、医療従事者用の防護服やマスクを購入するために、4月15日、中国に向けてチャーター機を飛ばす計画を公表した。DHL Global Forwarding Costa Rica社と120万ドルのチャーター機契約を交わした。なお、第一弾は、3月30日に中国大使館より、検査キットを含む物資が引き渡され、第二弾は、ジャック・マー財団及びアリババ財団によって医療器材が送られた。ロドルフォ・ソラーノ外相は、「コスタリカ国民及び国を代表して、中国国民の連帯に感謝申し上げる。中国からの3度に渡る支援によって受け取った医療関係物資によって、我々は直面する緊急事態に適切に対処できるだろう。このような協力の実現は、中国とコスタリカ国民の友好関係の証左であり、戦略的同盟関係が実を結んだ結果である。」と感謝の意を述べた。

医療物資輸送の航空機第一便は、25日上海を出発し、26日午前1時コスタリカに到着した。第二便は同日深夜、最終第三便は27日深夜に到着。第一便の到着に合わせ、ロマン・マカヤ・コスタリカ社会保険庁長官と湯恒（Tang Heng）駐コスタリカ・中国大使が現場に駆けつけた。

供与物資の累計は、使い捨て防護服10万着、N-95マスク1万個、医療用マスク14万枚（うち4万枚は中国からの無償供与）、医療用ゴーグル11万個、手袋10万着及び防護服10万着である。

(2) 中米経済統合銀行（BCIE）：検査キット26,000個が送られ

た（後に、不備が確認され使えないことが判明）。

（3）4月1日、ロドルフォ・ソラーノ外相と康京和（Kang Kyung-hwa）韓国外相は電話対談を行い、新型コロナウイルス対策で協力していくことを約束した。右対談において、両外相は、両国の医療チーム間の意見交換、韓国からコスタリカへの協力メカニズムの発展、商業・投資の推進の三段階で協力していくことに合意した。4月7日、延世大学と世界銀行主催の第一回テレビ会議が開催され、コスタリカ外務省及び在韓コスタリカ大使館の協力の下参加したコスタリカ人医師は、韓国側専門家から同国における新型コロナウイルスに対するグットプラクティスを学んだ。

5 オルテガ大統領の消息

オルテガ・ニカラグア大統領が3月12日の新型コロナウイルス対策SICAテレビ会合以来公に姿を見せなかったことから、コスタリカで治療を受けているのではないか等の噂が立ったが、4月15日、再び姿を見せた。